

## 自由集会 / Free-Style Session

10月30日(土) (30 Oct.) 16:10 ~ 18:10

A会場  
F1-A1 ~ F1-A4

自由集会 1 / Free-style session 1  
電気合成微生物の生理・生態と産業利用の可能性  
[微生物電気化学研究部会]

[コンビナー / Convenor]

石井 俊一 (部会長, JAMSTEC), 高妻 篤史 (部会事務局, 東京薬科大学)

近年、鋳物(電極)や他の微生物から電子を受け取り、還元的代謝を行う『電気合成微生物』が発見され、大きな注目を集めている。エネルギー源としての電気の利用(電気合成)は光合成、化学合成に次ぐ第三のエネルギー形態として微生物生態学的に重要であるだけでなく、バイオを用いた物質生産にも新たな展開をもたらす可能性を秘めている。本集会では、当該分野の基礎ならびに応用について、気鋭の研究者が最新の成果を紹介する。

F1-A1 固体から電子を抜き取る電気合成微生物群集を用いた電気メタン生成

16:10-

○石井 俊一

海洋研究開発機構・超先鋭研究開発部門

F1-A2 モデル電気共生系を用いた細胞外電子伝達とその効率の解析

16:40-

○五十嵐 健輔

産総研・生物プロセス

F1-A3 電気化学活性を持つ鉄酸化細菌の産業利用に向けて

17:10-

○山田 祥平, 高妻 篤史, 渡邊 一哉

東薬大院・生命

F1-A4 微生物電気化学によるCO<sub>2</sub>変換技術

17:40-

○中村 孝道

熊谷組・技研

10月30日(土) (30 Oct.) 16:10 ~ 17:40

B会場  
F2

自由集会 2 / Free-style session 2  
Biogeoscience フィールド研究のアレコレ: 現場体験談・新規開拓情報など  
[BioGeoscience 研究部会]

[コンビナー / Convenor]

砂村 倫成 (東大理), 諸野 祐樹 (JAMSTEC), 濱村 奈津子 (九州大理)

COVID-19の世界的な感染拡大の影響を受け、「海外調査に行けない」「フィールドワークが思うようにできない」など困ったことも多いのではないのでしょうか。しかし、このような時期にこそ、様々な環境でひっそりと待っていてくれる微生物たちに思いを馳せ、新しいフィールドに飛び出していく準備をしてみませんか? 様々な現場で経験を積んでいる学生の体験談、今後フィールドを広げたい研究者向けの情報交換などを目的とします。

10月30日(土)(30 Oct.) 16:10 ~ 17:40

C会場  
F3-C1

自由集会 3 / Free-style session 3  
教育研究部会の今後を考える【微生物生態教育研究部会】

[コンビナー / Convenor]

片岡 剛文 (福井県立大学)

当部会は、時々の要請に応じて様々なアウトリーチ活動を実施してきました。近年では高校生ポスター発表会や微生物観察会が恒例となるなど活動の場は益々拡大しています。開催方法もリモート開催が増え、多様化してきました。これらの課題の整理と解決方法、また、今、当部会が今後取り組むべき課題についても意見交換できればと思いますので、非部会員も大歓迎ですので興味のある方はご参加ください。

F3-C1 アウトリーチ活動の多様化を考える

16:10-

○片岡 剛文  
福井県大・海洋

10月30日(土)(30 Oct.) 17:50 ~ 19:20

B会場  
F4

自由集会 4 / Free-style session 4  
私の考える最強のラボ選手権【微生物生態学会若手会】

[コンビナー / Convenor]

中島 悠 (JAMSTEC), 微生物生態学会若手会世話人

「ラボ見学に来る学生は教員の論文を読むべきか」が某 SNS で賛否両論となった。これはラボルール・方針にも影響されるだろう。単一ラボしか知らない場合、自分の知るルールを他と比較する機会は少ない。若手会による本集会ではラボ生活に焦点を当て、ゼミ目的や頻度、ラボ仕事などについて、少人数毎に悩み相談や情報共有を行う。「自分が PI なら」「●●なゼミは▲▲だ」といった結果をまとめ、明日からの研究生活に役立てたい。

司会：中島 悠 (JAMSTEC)

ファシリテーター：微生物生態学会若手会世話人

11月1日(月)(1 Nov.) 9:00～10:30(第1部), 18:00～19:30(第2部)

B会場  
F5-B1～F5-B5

自由集会5 / Free-style session 5  
環境ウイルス研究の新たな潮流：環境ウイルス研究会集会  
[環境ウイルス研究会]

[コンビナー / Convenor]

高橋 迪子(高知大学), 武部 紘明(京都大学), 千葉 悠斗(筑波大学)

私達がSARS-CoV2との戦いの只中にあるように、微生物も環境中で常にウイルスとせめぎあっている。本年度の環境ウイルス研究会集会では、最新の解析・分析技術から環境ウイルスの多様性や生態系での機能に迫った魅力的な研究を紹介する。オンラインの利点を活かし、海外からの講演も予定している。本集会が部会員にとって最新情報と刺激を得る場に、非部会員にとって環境ウイルス分野に興味を持っていただく場となることを目指す。

第1部

9:00- コンビナー説明

F5-B1 Extracellular ribosomal RNA reveals highly uneven lysis of microbial taxa in the sea

9:05-

○ Kevin Xu Zhong<sup>1</sup>, Jennifer F. Wirth<sup>1</sup>, Amy M. Chan<sup>1</sup>, Curtis A. Suttle<sup>1,2,3,4</sup>

<sup>1</sup>Department of Earth, Ocean, and Atmospheric Sciences, University of British Columbia,

<sup>2</sup>Department of Microbiology and Immunology, University of British Columbia,

<sup>3</sup>Department of Botany, University of British Columbia,

<sup>4</sup>Institute for the Oceans and Fisheries, University of British Columbia

F5-B2 Determination of marine virus and associated host communities and their dynamics via metagenomics and proximity ligation

9:40-

○ Jed Fuhrman, Shengwei Hou, J.Cesar Ignacio-Espinoza, Sarah Laperriere, JL Weissman  
Univ. of Southern California

10:15- フリーディスカッション

10:25- コンビナー結語

第2部

F5-B3 人工RNA自己複製体と寄生体の長期共進化

18:00-

○水内 良<sup>1,2</sup>, 古林 太郎<sup>3</sup>, 市橋 伯一<sup>1,4,5</sup>

<sup>1</sup>東大・先進科学, <sup>2</sup>JST・さきがけ, <sup>3</sup>東大・応用科学, <sup>4</sup>東大・生命, <sup>5</sup>東大・普遍性

F5-B4 ウイルスの多様性を探る：公共データの再利用によるRNAウイルス配列の大規模調査

18:25-

○川崎 純菜<sup>1,2</sup>, 小嶋 将平<sup>1</sup>, 朝長 啓造<sup>1,2</sup>, 堀江 真行<sup>3,4</sup>

<sup>1</sup>京都大・ウイ再研, <sup>2</sup>京大・院生命科学, <sup>3</sup>京大・白眉センター, <sup>4</sup>大阪府立大・院生命環境科学

F5-B5 Not everything is said with metagenomics: lesson from single virus genomics

18:50-

○ Manuel Martinez-Garcia, ○ Francisco Martinez-Hernandez  
Universidad de Alicante

19:15- フリーディスカッション

19:25- コンビナー結語

**11月1日(月)(1 Nov.) 12:10～13:00(ランチタイムセミナー),**  
**19:00～21:00(oVice懇親会)**

**A会場**

**F6**

**自由集会6 / Free-style session 6**

**ランチタイムセミナー 情報シェアで非日常を乗り切る!**

**ー進学・留学・就活・研究・ラボ運営・ワークライフバランス Tips シェアリングー**

[コンビナー/Convenor]

キャリアパス・ダイバーシティ推進委員会

---

微生物生態学会キャリアパスダイバーシティ推進委員会では、COVID-19感染拡大下で減ってしまった会員同士が交流し情報シェアする機会の場合として、ランチタイムセミナーとOviceを用いたオンライン懇親会を企画します。ランチタイムセミナーでは、若手、中堅、そしてシニアの微生物生態学会員有志に、各会員の研究内容、研究を進める上で直面した課題と解決策について簡単に紹介頂き、Ovice懇親会(11月1日 19:00-21:00)の参加方法を説明します。Ovice懇親会では、研究分野、進学、留学、ラボ運営等、会員同士が情報共有したい主要トピックに分かれて交流頂きます。ランチタイムセミナーで話題提供した会員との交流や、学会期間中に発表された演題内容について心ゆくまでディスカッションする場として頂ければ幸いです。

---